**ハンドマイク街頭演説原稿例　　検査拡充・くらし支援・五輪中止**

　　二〇二一年二月五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、緊急事態宣言が３月７日まで一カ月間延長されることになりました。国民の様々な努力にもかかわらず、医療機関や高齢者施設での集団感染が広がっています。また、医療機関のひっ迫によって自宅療養者が急増し、症状急変による重症者や死者が増えている現状は極めて深刻です。このような中、埼玉県はさいたま市を除く県内のすべての医療機関、高齢者施設の職員や入所者に集中的なＰＣＲ検査を実施することを決めました。一月末に、日本共産党埼玉県委員会は同様の検査拡充を大野知事に申し入れており、今回の決定を高く評価するものです。県内では、高校など学校現場でのクラスタ―も広がっています。日本共産党は、学校クラスタ―を防ぐために、陽性者１人が判明した段階で、全校生徒・職員へのＰＣＲ検査を実施することを県に強く求めていきます。みなさんのご支援をよろしくお願いします。

　みなさん、いま、非正規雇用で働く人の生活苦が広がり、時短営業に協力している飲食店はじめ、多くが事業者が存続の危機に立たされています。にもかかわらず、菅首相は、国会質疑で野党が一致して求める持続化給付金や定額給付金の二回目の給付を頑なに拒否しています。さらに、日本共産党の小池晃参院議員が「一日あたり一律６万円の協力金ではなく、ドイツのように事業規模に応じた十分な営業補償を行うべきだ」と繰り返し求めましたが、最後まで要求に応じませんでした。菅政権にコロナ禍のなかでの政権担当能力がないことは明らかです。今年、行われる総選挙では、国民の命とくらしを守るために、何としても野党による政権交代を実現させていこうではありませんか。野党の勝利と日本共産党の躍進のためにみなさんの大きなご支援をよろしくお願いします。

　みなさん、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長による女性蔑視発言に、国内外から強い批判の声が上がっています。発言の撤回は当然ですが、五輪憲章に真っ向から反する発言をした森会長はただちに辞任すべきです。

さらに、いま、あらためて考えるべきは、深刻な感染拡大のなか、東京オリンピックを予定通り開催すべきかどうかです。日本共産党は、以下の理由から、この夏の東京五輪は中止し、コロナ対策に集中すべきと考えます。まず、第一にワクチン接種が間に合わず、各国選手や国民の安全が保障できないこと、第二に、各国の感染状況に差があり、アスリートの願うフェアな開催が困難なこと、第三に、大会中に１万人もの医療者を確保することは現実的でないことからです。日本共産党は、政府がゼロベースから開催の可否を再検討し、関係機関と協議を開始することを強く求めていきます。

最後に、「桜を見る会」問題など、スクープ連発の「しんぶん赤旗」が、いまメディアでも広く注目されています。この機会に「しんぶん赤旗」をぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）